努力と挑戦の姿 感銘

石田（いしだ） 明日香（あすか）さん（越前中3年）

日本の演出家、実業家で劇団四季創設者の一人である浅利慶太さんが7月13日に亡くなりました。

私は修学旅行で、初めて劇団四季のライオンキングを見ました。とても演技力が高く、迫力がありました。私はこの記事で初めて、浅利さんがあの素晴らしいミュージカルを作り出した総監督だということを知り、本当に驚きました。政財界に広い人脈を持ち、巧みに人の心をつかむなど人間くさい魅力にあふれていた浅利さん。また、韓国と中国の俳優さんを育てた方でもあり、舞台を愛し、努力そして挑戦もしていたそうです。

私は今年受験生です。部活動も終わって、徐々に受験への心構えができてきました。私も浅利さんのように、目標の高校に合格できるよう努力します。また、難しい問題にも挑戦し続け、学力をさらに高めていきたいです。

マイトップニュース

浅利慶太さん死去

演出家 劇団四季を創設

劇団四季を創設した先代表でミュージカル「キャッツ」「ライオンキング」などを手掛けた演出家の浅利慶太（あさり・けいた）さんが13日午後5時33分、悪性リンパ腫のため東京都港区の病院で死去した。85歳。東京都出身。葬儀・告別式は近親者で行った。喪主は妻で女優の野村玲子（のむら・りょうこ、本名浅利玲子＝あさり・りょうこ）さん。後日、お別れの会を開く予定。【8面に評伝】

1953年、劇団四季を結成。63年の日生劇場（東京都）の開場に携わり、一座在籍を集めた。米ブロードウェーに別働隊を送り、いち早く海外のミュージカル作品の翻訳、上演に取り組んだ。73年に「ジーザス・クライスト＝スーパースター」を初演、日本の様式美を取り入れた斬新な演出で高い評価を受けた。

劇団四季の運営会社「四季」の社長や会長を歴任。各地に設けた専用劇場でロングラン公演を行う興行システムを確立した。「キャッツ」を30年以上にわたって演じ、「ライオンキング」は公演回数が1万回を超えて国内の演劇として最多記録を更新。「葵安」など多くの演目を上演してミュージカルを定着させた。

オリジナル作品も発表し「ミュージカル李香蘭」をはじめとする「昭和の歴史3部作」や舞台「思い出を売る男」は劇団の代表作となった。

98年の長野冬季五輪では開閉会式の総合プロデューサーとして活躍。「教育再生会議」の有識者メンバーなど政府関係機関の委員を多く務め、積極的な発言で知られた。

晩年は四季を離れ、「浅利演出事務所」で演劇活動を行った。「ジーザス」で芸術選奨文部大臣賞のほか、菊池寛賞など受賞多数。

福井新聞

© 福井新聞社 無断複製・転載を禁じます